

皆様へのご報告

子どもたちのための民間の国際援助団体（NGO）
セーブ・ザ・チルドレンにコンサートの収益金の一部から
六万円をお届けしました。

世界の困難な状況にある子どもたちへの支援に
使用させていただきましたというお礼のお手紙が
セーブ・ザ・チルドレンから来ました。

ご協力の皆様への感謝とご報告を申し上げます。

素敵な笑顔に出会えますように

平成十七年一二月

有限会社マイルドスクエア

秋田佳津

詠の会 in 應典院 リピート山中

この世からあの世へ
命つなげるよるこびのうた

平成17年11月12日(土)

喜ばれ、喜んで、そんな瞬間を
詠うことを通して 積み重ね出会った人たちと 共有したいのです

現世 来世を 自身の体験談から生まれた言葉で語りかける

この世に誕生する前から 死後の世界までをテーマにした 心に響くステージ

ぶるふいーる



リピート山中

(作詞作曲家、歌手、語り部)

自作の『ヨーデル食べ放題』で東芝EMIからメジャーデビュー。

2001年、長島ジャイアンツの公式応援ソング『ヨーデル勝ち放題』を制作。

TVレギュラーを経てMBSラジオパーソナリティーに就任。

担当した番組『情報ラジオ・スパイス!』がギャラクシー大賞を受賞する。

小中学校で心の環境コンサート。医師に同行して僻地での往診コンサート。

北アルプス山小屋コンサートなど独自のスタンスで活動。

人と人との縁を結ぶ歌作り、詠い人であることをモットーとする。

ことに在宅末期癌患者への往診コンサートなどから命のありがた、

死との関わり方に感じるところがあり、歌を通して心の平安を伝えはじめる。

リピート山中URL <http://repeat.ddo.jp/>

◆應典院：06-6771-7641

◆地下鉄谷町線：谷町9丁目駅 3番出口より西へ6分

◆地下鉄千日前線、堺筋線、近鉄：日本橋駅 8番出口より東へ5分

◆應典院URL <http://www.outenin.com>

開演 PM7:00

開場 PM6:30

前売り 2,500円

当日 3,000円

【予約・お問合せ】

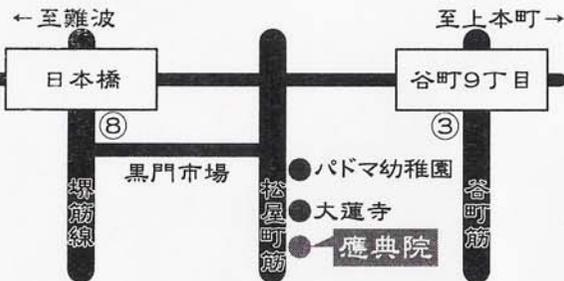
◆リピート山中コンサート事務局

078-753-3449

◆有限会社 マイルドスクエア(秋田佳津)

06-6355-5123

E-Mail：fwky7074@mb.infoweb.ne.jp





この世からあの世へ
命つなげるよるこびのうた

詠の会 in 應典院

リピート山中

平成17年11月12日(土)



コンサートによせて リピート山中

生まれるということは出発するということだ。死ぬということは帰還するということだ。希望に満ちた出発、達成感に満ちた帰還ならいいのにな。

体は心の乗り物だ。心は体の運転士だ。乗り心地の良い乗り物、運転のうまい運転士ならいいのにな。

肉体は魂の宿だ。魂は肉体の客人だ。居心地の良い宿、品格と節度のある客人ならいいのにな。

歌は魂の状態だ。詠^{うた}うことは魂の表現だ。清らかな状態、美しい表現ならいいのにな。

運転士が乗り物に別れを告げる日、振り返った道の上。自分の轍(わだち)の跡に、きれいな花が咲いていたらいいのにな。



リピート山中
うた ギター



亀井澄夫
マンドリン バンジョー



リストーラ久留島
ベース



Maguma
カホン



今年の冬のある日、「リピートさん、應典院のホールであなたのあの歌聴きたい」「佳津さん、僕も詠いたい」そんな会話から、このコンサートが実現しました。

「あの世へ帰りたい」という歌がある。リピート山中はあの世とは懐かしい魂のふるさとだと言う。心地よく綺麗なメロディに乗って詠われるこの曲も本日、本堂ホールで聴ける。

今回のコンサートで、取り組むテーマは重い。生老病死、まだまだ口にすることが非常に難しくはばれる。それだからこそリピート山中に詠い人であってほしい。ヒューマニストでありユーモリストでもある彼が、遥かに宗教や哲学をも抱きかかえての曲づくりに、我々をどんなにか魅了させてくれることでしょう。

日本という国に住んでいる私たち、成熟経済のなかで過ごしながらも心の豊かさを感じぬまま、超高齢化社会に向かって突き進む。ストレス社会でもありどんどん不機嫌な人間が跋扈して、不安や不満にとりつかれて鬱憤がたまり自分以外のところに波及する。

やっぱり、ワクワクドキドキできる時間を持つことかしら。熱中かつ夢中になれる何かを手に入れること。寝食わすれて三昧になれるなんてとても素敵です。そして、好きな音楽を聴いたり、好きなことをする時間を1日のうち、10分でも確保できればいいそうです。きっとα波状態になりβエンドルフィンがあふれでて、元気になるって、憂いや悲しみや体の不調さえも追いやってくれることでしょう。

幕末から明治の若者はよく泣いたと何かの本で読みましたが、おお泣きしたり、おお笑いしたりのひとつときを、やはり1日のうち10分でも持ちたいですね。

さあ、リピート山中の詠の会をはじめましょう。デジタルな毎日をおいて、ひざつきあわせてじっくり語り合う時間を、今一度取り戻したく思います。

あなた様は、おお泣きしますか？ それとも大笑いしますか？



あの世へ帰りたい 作詞・作曲／リピート山中

あの世へ帰りたい 三途の川にはすの花
あの世へ帰りたい 僕がこの世に生まれる前の故郷へ

あの世へ帰りたい 白檀の香りに包まれた
あの世へ帰りたい 僕がこの世に生まれる前の故郷へ



よろこびのうた 作詞・作曲／リピート山中

ああよろこばれ よろこんで うれし涙でありがとう
よろこばれ よろこんで かわす笑顔で お疲れさん

命あるただそれだけで 儲けもんだと言うけれど
この命終わるまでには
生きていて ああよかったと 思う自分に出会いたい

ああよろこばれ よろこんで うれし涙でありがとう
よろこばれ よろこんで かわす笑顔で お疲れさん

人を騙して稼いだ金で 呑んだ酒のほろ苦さ
儲け話でならべたウソじゃ
誰も幸せに ああできやせんと 気づいた時から生き直し

ああよろこばれ よろこんで うれし涙でありがとう
よろこばれ よろこんで かわす笑顔で お疲れさん

いつの日かあの世へ帰る 準備万端できたとき
ふりかえる道のどこかに
やっと咲かせたきれいな花を 一輪残して旅にでる

ああよろこばれ よろこんで うれし涙でありがとう
よろこばれ よろこんで かわす笑顔で お疲れさん
ああ生きてきてよかったな





浄土宗大連寺住職
應典院主幹
秋田光彦氏

慈しみの街

ひと・共生・ネット

秋田 光彦

空前の多死社会である。現在、日本で1年間に亡くなる

人の数は100万人余り、それが5年後には125万人、25年後には165万人と加速する。死は稀なものではなく、私たちの社会にあふれかえるようになる。

しかし、実際の日常生活から死は遠く見えにくい。かつて家族が担った看取りは病院へ、また自宅で営まれた葬儀は葬祭場へと移り変わり、死は暮らしの中から慎重に排除されてゆく。健康や長寿についての情報は豊富でも、いかに老い、いかに死ぬか、は年齢を重ねただけで理解でき

るものではない。

10月末、葬送にかかわる事業者が合同して「エンディング祭り」なる催しを大阪で開催した。家族葬、樹木葬、手元供養、永代供養墓等々、新しい葬送や供養に関するさまざまな情報や商品の展示などを行い、会場には260人が押し寄せた。参加者の多くは50代、60代の女性たち



岸かおり作「自分」

らの関心は大きい。

「エンディング」とは、死を見据えて生きる人生後半の時間。超高齢化の進む社会で、誰かが長いエンディングをどうするのか、当事者は、誰もが長いエンディング

を受け入れなくてはならない。それは同時にこのプロセスをどう生きるか、という自分の意思を問われる期間でもある。私らしい理想の死を選び取る、といっ

て、多くを家族任せにしてきた。死は自ら進んで取り扱わなければならないよう、それが代わりの社会的な支援の仕組みが必要となる。先の展示会の中で、喪主代行や死後事務、葬儀社の第三者評価など実務

あきた・みつひこ 1955年大阪市生まれ。同市天王寺区の浄土宗大連寺住職。97年に同寺の塔頭、應典院を再建。芸術やNPOの拠点になっている。

「死」を孤立させないための仕組みを

サポーターを行う市民団体だったが、その他にも、地域

これまで私たちは自分の死後について、多くを家族任せにしてきた。死は自ら進んで取り扱わなければならないよう、それが代わりの社会的な支援の仕組みが必要となる。先の展示会の中で、喪主代行や死後事務、葬儀社の第三者評価など実務

誰一人死を免れる者はいない。だからこそ死を生活の場に取り戻し、市民レベルで語り合う場が強く求められている。そこからこれからの家族や社会の役割が見えてくるに違いない。